鹿児島県小中学校長研究大会　分科会記録

○ 日時　令和６年１１月１５日（金）12：35～14：00

○ 分科会Ⅰ　小学校　第２分科会

「教育課程」

○ 研究主題

「地域のよさを生かし，『生きる力』を育む特色ある教育課程」

○ 協議第

「地域のよさを生かした特色ある教育課程の編成・実施と評価」

○ 発表者　　鹿児島市立本城小学校　　牧住　幸二

○ 司会者　　鹿児島市立宮小学校　　郷原　光徳

○ 記録者　　鹿児島市立牟礼岡小学校　吉松　公一

【質疑応答】

（質問：納官小　奈良　博一）

・　同じ中学校区の校長が集まって研修会を行っているとのことだったが，クローズアップしている課題はあるか。

（応答：本城小　牧住　幸二）

・　不登校対策が一番の大きな話題である。個別の問題に対して情報共有を行い，対応について協議を行っている。

（応答：宮小　郷原　光徳）

・　講師の先生を招いて講話をいただいた。

講師１：元生徒指導監

内容：不登校，いじめの対応について

講師２：桜峰小校長

内容：予習型学習について

（質問：納官小　奈良　博一）

・　地域一体となることはよいが，職員の負担が増えたと訴えることはないか。

（応答：本城小　牧住　幸二）

・　例えば，土曜授業日に学習発表会を行い，その後から地域行事の敬老会を行うなどして業務改善を意識した計画をたてている。

（質問：青葉小　瀬戸山　文隆）

・　児童数が非常に少ない中で，「話合い活動」や「協働での課題解決」等を行う場合に，近隣の学校とリモート学習を行う等の取組はないか。

（応答：本城小　牧住　幸二）

・　吉田南中校区内の学校ではそのような取組は無いが，今後検討したいと考えている。

（質問：青葉小　瀬戸山　文隆）

・　教育活動にはマンパワーが必要であるが，限られた人数の中で，職員の人材活用はあるか。

（応答：本城小　牧住　幸二）

・　職員一人一人に音楽や美術，科学等の得意分野があり，それを生かした活動を行っている。また，地域や保護者の人材活用無くしては本校の教育は成り立たない状況である。

【グループ討議後の班ごとの発表】

（Ｂ班：西紫原小，伊集院北小，国分北小，鹿屋小）

・　本グループは全て中規模校なので，発表校とは地域のありようが違うが地域の特色を踏まえた教育活動を展開している。地域によっては伝統的な行事がない学校もあるが，地域に詳しい人材を確保している。

課題としては，職員の意識が低く，地域のよさを知らないことである。地域の方々の協力を求める中で職員の理解を深めていきたい。コミュニティスクールとして学校長がリーダーシップを発揮し，ビジョンを示していく必要がある。

（Ｆ班：西谷山小，折田小，中平小，小宿小）

・　学校規模は様々であるが，米作りやそば作り，八月祭りなど共通する行事もあった。

業務改善の名のもとで必要なものまでもカットされている現状があるのではないか。本来必要なものが失われ，質の低下が懸念される。コロナ禍が終息した今こそ，地域のつながりを生かした活動を復活させていきたい。

（Ｇ班：旭小，三体小，納官小，屋仁小）

・　職員自体に体験が少ない，知らない。

体験活動それぞれの狙いや意義を十分に理解させ地域のよさを子供たちに伝えていきたい。

鹿児島県小中学校長研究大会　分科会記録

○　日　時　令和６年11月15日（金）14:15～15:55

○　分科会Ⅱ　小学校　第２分科会

「教育課程」

○　研究主題

地域のよさを生かし，「生きる力」を育む特色ある教育課程

○　協議題

「複式・小規模校の特性を生かした教育課程の編成・実施と評価」

○　発表者　志布志市立田之浦小学校　川邊　真人

○　司会者　志布志市立香月小学校　　村岡　和志

○　記録者　志布志市立志布志小学校　池之上敬一

【質疑応答】

（質問：国分北小　川野　浩明）

・　社会に開かれた教育課程という視点で，教育課程の編成段階で地域の方々が関わることはないのか。

（応答：田之浦小　川邊　真人）

・　総合的な学習の時間や創意の年間指導計画を作成する段階で，協力が得られるのか，学習活動をより効果的に実施する方法はないのか等について，地域の方々と協議する（確認）場をもっている。

（質問：納官小　奈良　博一，諸鈍小　赤池　夏樹）

・　遠隔授業の実施学年，教科，実施進度及び次年度の計画をどのように作成しているのか。

・　遠隔授業を行う場合，評価をどうしているのか。

（応答：田之浦小　川邊　真人）

・　低学年の算数科で，年１単元の実施である。教科や実施時期は決めておらず，担任同士が打ち合わせをして実施するようにしている。評価については，授業者が子供の表情やポストテスト等の結果を見て，担任と共有している。

（質問：里小　永野　俊也）

・　チーム担任制を導入するに当たり，どのように校長としてリーダーシップを発揮したのか。

（応答：伊崎田小　大山　昭二）

・　職員に，「一人でしない　一人にしない」とチーム担任制の目的を伝えた。ベテランの負担が増えるのではないかとの声もあったが，キーマンとなる先生に相談しながら理解を求め，導入を推進した。

【グループ討議後の班ごとの発表】

（Ⅰ班：大棚小　平野　武志）

・　指導体制の工夫では，教科担任制を実施し，担当時数の均一化を図っている学校があり，次年度チーム担任制の導入も検討しているので，参考となる発表であった。近隣校との連携では，合同行事を実施する場合は当番制にしていることや年間の半分程度を遠隔授業で実施している学校の実践紹介もあった。

（M班：轟　小　植田　秀樹）

・　実践発表のように，小規模校では複式解消のため特別支援学級担任や教頭が授業に入っている学校があった。ただし，教頭の業務改善のためには事務仕事等で校長のフォローも必要だとの意見も出された。南種子では，外国語や音楽の授業で，中学校（１校）の先生が近隣の小学校の授業を受けもち，中１ギャップの解消につながっている事例の紹介もあった。

【指導助言】

県教育庁義務教育課企画調査係指導主事

新名主　洋一

【２校の実践より】

・　１校目の発表では，校長のつながりを大切にしているのが印象的であった。地域を一緒に創り出すという観点での小中連携は新たな発見であった。本城WITHの考え方は，社会に開かれた教育課程，豊かな教育活動の実現，業務改善にもつながっていくと感じた。

・　２校目の発表で，遠隔合同授業を子供の実態に合わせ，柔軟に実施しているのがよかった。遠隔授業では，両方に授業者がいることが必要であることは確認しておきたい。

・　地域とのつながりを意識して教育課程編成を行う場合には，よさや課題を共有しながら地域と一緒に取り組んでいけるよう働きかけていくことが大切である。また，関係者同士で目標や情報を共有しながら，具体的な数値を示し校長の思いを伝えていくことも大事である。

・　地域行事等を教育課程に取り入れる際には，どのような資質・能力を育てるのかを明確にして計画を作成する必要がある。

（記録　志布志小　池之上　敬一）